

# 寧夏における特色優位性農業の発展の特徴と活路について

陳育寧  
寧夏大学

キーワード； 優位性のある特色産業 特徴 発展の道  
要旨；

寧夏の農業発展は総体規模が小さい。しかし、明らかな特色と独特な優位性を持っている。2003 年以来、寧夏は資源配置及び生産力の分布を優位化することを通じて、農業構造を調整し、発展を先導する産業を大いに育成し、優位性のある特色農産品の大規模な生産を推し進め、四つの主導的生産品と六つの地域優位性産品および若干の地方的特色を持つ産品を重点的に発展させ、優位性のある特色農産品を頼りとする農業産業化の発展の土台を基本的に築き上げた。また、三つの主な特徴が現れた。特色優位性産業の発展は、産業構造の優勢化の調整を促進した。特色優位性産業はすでに農民の収入の主な道となった。特色優位性農業の発展はすでに合理的な分布が形成できた。

優位性のある特色農業の発展を加速することによって、全自治区の農産物の総体的な素質が上がった。粗放型農業から集約型農業への転化、及び伝統農業から現代農業への転化を促進した。

“十一次五年計画”期間における、寧夏の優位性のある特色農業の発展の手立ては以下の方面からするべきである。それは、大農業の思想を樹立し、工業を発展させる理念に従って、優位性のある特色産業を発展させる。農業を土地の事情に適した措置をとり、科学的に計画企画し、各区の実情に合わせてそれぞれ指導する。農業現代化を積極的に推進する。重点産業の規模と効果を拡大、向上させる。以上の四つの方面から推進する。資源の優位性を産業の優位性、経済の優位性へ転化させることを促進して、農業の収入を絶えず増加させる。

寧夏自治区の土地面積は 6.64 万平方キロメートルであり、全国の土地面積の 0.69% しか占めていない。人口は約 600 万人で、全国総人口の 0.45% しか占めない。寧夏の農業発展の総体規模は小さい。しかし、明らかな特色と独特な優位性を持っている。寧夏農業の南北差異がはっきりしている。北部では、黄河の水を使って灌漑利用する歴史は長く、灌漑と排水が便利で、光、熱、水、土の資源が効率的に組み合わせられ、旱魃と水害の年でも大きな問題はなく、“塞上江南”という美称で広く知られている。さらに、わが国の 12 の商品食糧生産基地のひとつでもある。

南部山区は、生態環境が悪く、生産条件は厳しい。しかし、気候は涼しく、また、工業による汚染からは遠く離れているので、ジャガイモや穀物、グリーン食品及び有機商品を生産するのに理想的なところである。2003 年以来、寧夏は資源配置及び生産力の分布を優位化することを通じて、農業構造を調整し、発展をリードする産業を大いに育成し、優位性のある特色農産品の規模的な生産を推し進め、クコ、清真牛肉、羊肉、牛乳、ジャガイモの四つの大きな主導的生産品及び淡水魚、野菜、牧草、わら飼料及びトウモロコシ、品質のいい小麦、水稻、葡萄酒醸造用葡萄という六つの地域優位性産品および若干の地方的特色を持つ産品を重点的に発展させ、優位性のある特色農産品を頼りとする農業産業化の発展の土台を基本的に築き上げた。

現在では、寧夏の衛寧、清水河流域と賀蘭山東麓のクコ産業ベルト地帯、塩池・同心・靈武の灘羊(主に寧夏の中部乾燥地域の平原で放牧される羊のこと... 訳者注)、黄河の水による灌漑区の肥育羊、肥育牛の改良、六盤山の肥育牛などの清真牛・羊肉産業ベルト地帯、呉

忠、銀川市の牛乳産業ベルト地帯、南部山区のジャガイモベルト地帯、黄河の水による灌漑区の品質のいい食糧、水産品、野菜産業ベルト地帯、賀蘭山東麓の葡萄産業ベルト地帯を基本的に形成できた。全自治区の農産品加工企業数はすでに 6,680 社あまりに達し、規模のある企業は 244 社に達した。売り上げ収入が 1,000 万元を超えた企業は 66 社で、1 億元を超えた企業は 6 社もある。すでに「夏進」という牛乳、「寧夏紅」というクコ酒、「西夏王」という葡萄酒、「聖雪絨」というカシミヤ、「塞北雪」という小麦粉、「夏緑」というドライ野菜など広く知られているブランド商品を育成できた。

2006 年に全自治区の農産品加工産業の生産高は 78.6 億元に達し、農業総生産高の 51.6%を占め、“九次五ヵ年計画”末より 30%も増加した。特色優位性農業の発展は、地域の経済発展を大いに推し進め、社会主義新農村建設の産業的基礎となった。

### ・農業の特色優位性産業の発展における主な特徴

#### 1．特色ある優位性産業の発展は産業構造の優勢化調整を促進

特色優位性産業はすでに基本的に形成され、かなり強い発展の勢いが現れている。

- (1) クコ産業の迅速な発展。近年来、クコの生産量と加工の生産高は毎年 30%以上の成長率で保っている。2006 年の栽培面積は 44.5 万ムーに達し、生産量は 5 万トンで、生産高は 15 億元に上った。国内での乾燥クコの流通量のうち寧夏のクコは 50%以上を占め、全国の海外輸出量の中で寧夏のクコは 62%を占めている。区域的分布、規模的なクコの木植栽、品種改良栽培、無公害生産はすでに基本的に実現できた。区内には各種の一定規模を持つクコ加工企業は 52 社あり、加工転化率は 13%以上で、クコジュース、クコ酒、クコカプセルなどの生産品はすでに国内外市場で販売され、主な生産地域である中寧県はすでに全国クコの集散地となった。
- (2) 清真牛・羊肉産業の速やかな発展。2006 年の牛・羊肉の生産量は 12 万トン、肥育牛の飼養頭数は 132 万頭、肥育羊の飼養頭数は 1,055 万匹、生産高は 18 億元に達した。一定規模の加工企業は 11 社で、加工能力は牛・羊肉の総生産の 50%に達し、北京、上海、広東などの地域まで商売されている。徐々に中東アジア、東南アジア、及び香港などの国と地域に市場を開拓しようとしている。
- (3) 牛乳産業の勢いある発展。2006 年の乳牛の飼養頭数は 27 万頭、新鮮な牛乳の総生産量は 73.8 万トンで、すでに銀川—吳忠乳牛産業ベルト地帯を形成している。各種の乳製品加工企業は 24 社で、そのうち寧夏新華百貨夏進乳業株式会社は、国家レベルの農業産業化のリーダー企業の列に入っている。夏進会社が生産した生牛乳はすでに全国の 28 省・自治区で販売されている。
- (4) ジャガイモ産業は迅速に拡大。前世紀 90 年代以来、ジャガイモ澱粉の加工業が盛んになるに伴って、いまではすでに寧夏南部山区の人々が貧困を乗り越え、豊かさを手にする産業になった。ジャガイモの作付面積は、かつての百万ムー未満から現在では 300 万ムーに増加し、総生産高は 9.7 億元に達した。年間 1,000 トン以上加工できる澱粉企業は 30 社ある。澱粉及びそれに関連する製品を年間 10 万トン生産する能力を形成し、加工率は 40%に達した。これは全国平均より 15%高い。
- (5) 地域特色産業は新しい発展が見られ。水産養殖水面は 28 万ムーに達し、水産品養殖の総生産量は 6 万トンである。一人当たりの水産品の占有量は西北の省・自治区のなかでは首位で、総生産高は 4.8 億元である。カシミヤの生産量は 253 トンで、ウールの総生産量は 9,455 トンで、総生産高は 41.35 億元に達した。草原生態保護と産業発展の歩みは加速し、品質のいい飼養草類は年間約 31.2 億キログラム提供でき、直接的な生産高は 15.6 億元に達した。砂地に植えたスイカの面積は 70

万ムーに達し、2007 年は 5.3 億元の生産高が実現できる見通しである。特色優位性産業の発展は農業産業構造を根本的に変化させ、特色農業の各業種の生産高の比率を大雑把に計算してみると、全自治区の農業、林業、牧畜、漁業の増加値の比率は、計画前の 2003 年の 53.8%、7.5%、36.1%、2.6%から 2005 年の 41.6%、16%、39%、3.4%に調整され、伝統的な栽培業の生産高の比重は著しく降下し、特色ある牧畜業と特色ある林産果物の比重が著しく上昇したことが分かる。

## 2．特色ある優位性産業はすでに農民の収入の主な道。

調査によると、クコ生産地域のムーあたりの純収入は、一般的に 2 千元～3 千元であると言われている。中寧県の農民収入の 3 分の一はクコ産業から得た収入である。とりわけクコの栽培が集中する郷・鎮あるいは村の農民の収入の 40%～80%は、クコから得た収入の所もあり、全自治区では農民世帯 10 万戸がクコ産業による増収のおかげで豊かになった。

銀川、呉忠の主な乳業生産区の農民一人当たりの収入の 45%以上が乳牛養殖から得た収入である。呉忠市の牛乳生産高は牧畜業の生産高の 68.5%を占める。全自治区の農民が、清真牛肉・羊肉の生産加工から得た収入は、一人当たり 474 元に達し、農民一人当たりの家庭経営収入の 14.8%を占める。

南部山区ではジャガイモ栽培農民一人当たりの増収は 410 元で、農民一人当たりの純収入の 30%弱を占める。そのうち西吉県では、農民がジャガイモから得た増収は一人当たり 550 元に達し、当地の農民一人当たりの純収入の 33%を占める。野菜産業は全自治区の農民一人当たりの収入に 460 元の貢献をした。牧草業は全自治区の農民一人当たりの年間純収入に 450 元の貢献をした。

淡水漁業の生産に携わる農民一人当たりの年間純収入は 4,300 元に達した。

カシミヤの生産に携わる農民一人当たりの年間収入は 2 万元である。統計によると、一定規模の農産品の加工企業に直接移転した農民は 12 万人以上である。

## 3．特色ある優位性農業の発展はすでに合理的な分布を形成。

中衛市は東部でクコを発展させ、西北部で施設野菜を発展させ、南部香山地区では砂地でスイカを栽培するという産業分布構造を確立した。呉忠市は清真牛肉・羊肉、乳産業、牧草産業、品質のいい水稻と小麦粉及びカシミヤ産業を着実に発展させ、施設野菜園区、生態科学技術養殖モデル区の建設の進行を加速した。固原市はジャガイモと家畜草産業を大いに発展させ、基本的に一定規模の生産を実現し、地域の優位性と分業の効果はしだいに現れ、産業の優位性とチェーン化が基本的に形成できた。銀川市は施設野菜、葡萄、品質のいい水稻と小麦、長なつめ、カシミヤなどの特色産業の発展を重視し、現代農業の発展を促進する新しい重点となった。石嘴山市は漁業、林業、牧畜業を結びつけた生態漁業のシステムを積極的に探索し、品質のいい食糧と脱水野菜産業を拡大し、良好な発展の勢いが見られる。

特色優位性農業を迅速に発展させることを通じて、農業産業の加工チェーンを延長することができ、農産品の加工業と農業生産高の比重は 1 対 2 に達した。農業の成長率は 2006 年は 2003 年より 46%増加した。圏域内の経済の実力は拡大し、2006 年は 2003 年の経済総量より 49%弱の増加である。全自治区の農業産業全体の素質は向上し、粗放型農業から集約型農業への転換、伝統的農業から現代農業への転換を促進した。

### ・ 農業の特色優位性産業発展の主な道

1. 大農業の思想を樹立し、工業を発展させる理念で優位性特色農業の発展を推進する。

市場での競争力がつよい優位性の有るいくつかのリーダー企業を重点的に育成する。それによって、優位性のある産業の全体的発展を推し進める。まず、産業発展の良好な環境作りをしなければならない。国内外の農産品加工企業と営業会社を積極的に引き入れ、政策による協力を通じて、生産の規模を拡大し、貿易と海外向けの農業を発展させ、産業のレベルを高める。優位性ある農産品加工企業は、対外協力などの共同経営を通じて、外部の資本と管理を積極的に引き入れ、できるだけ速く取り入れなければならない。“船を借りて海に出る”という方法を採用し、自治区外の大企業プラント効果と市場の優位性を頼りにして、自分の力を強くする。全国の特色優位性産業発展の新しい競争時期が来たときには早い足取りで先に登ることができるように発展を加速する。

2. 実情に合わせて適切な方法を取り、科学的な計画を立て、区別して指導する。

(1) 南部は黄土丘陵地帯である。六盤山地区の山は高く、雨が多いという有利な条件を利用して、水源涵養林、退耕還林、荒山造林、天然林の保護、小流域の治理、生態移民、退牧還草、人工で草を植えるプロジェクト等の一体的実施を通じて、生態経済圏と生態保護のシステムを築き上げる。当地の光、熱、水、土などの自然条件と観光資源を活用し、牧畜草、ジャガイモ、特色林業と果樹、トウモロコシ、漢方薬、穀物を重点にして生態経済型の特色優位性産業を育成・拡大する。

(2) 中部は砂嵐と旱魃地帯である。引き続き退耕還林還草を実施し、天然牧草地の被覆の立て直しと保護を確実にやり、山を封じ、禁牧の成果を固める。灘羊の飼養と加工及び品質のいい牧草の栽培と加工を重点にして草・牧畜産業を大いに発展させ、ジャガイモ、砂地でのスイカの生産と販売を重点とする特色栽培業、かんぞう、寧条、棗などの栽培と加工を重点とする樹林・果樹業を発展させ、生態農業区を建設する。

(3) 黄河の水による灌漑区。水資源の効率利用を中心にして、水利インフラ施設の建設を加速し、効率的節水農業を大いに発展させ、節水型の灌漑区を建設する。自然の資源優位性を頼りにして、品質のいい食糧、クコ、清真牛・羊肉、牛乳、淡水魚、野菜、トウモロコシ及びワイン醸造用葡萄などの特色優位性産業に力を入れ、農業産業化の経営を推し進め、農産品の再加工率と加工度を大幅に向上させ、現代農業発展区を作り上げる。

3. 農業現代化を積極的に推進する。

“十一次五年計画”には、特色優位性の養殖・栽培業を頼りにして、10の年間生産高10億元を超えるリーダー企業あるいは企業グループを強く発展させる。10の自治区レベルの農産品協会を作り、50の規模が大きく、レベルが高い、率先力の強い農村合作経済組織を作る。農産品の精細加工と総合利用の能力を高め、主な農産品の初期加工以上の加工転化率を30%～40%にし、農産品の加工業の生産高と農業の総生産高比率を1.5対1を超えさせる。リーダー企業の建設と発展を頼りにして、逐次特色優位性産業地帯を拡大する。クコの栽培面積を60万ムーにし、総生産量は9,600kgにし、商品量は国内市場の60%以上を占め、輸出量は全国の70%を占めさせる。飼養する乳牛は50万頭で、80%の乳牛は養殖園区の中で、あるいは規模の大きな乳牛農場の中で飼養する。肥育牛、肥育羊の飼養量はそれぞれ200万頭と1,500万頭に、牛肉・羊肉の生産量は肉類の総生産量の65%以上を占めさせる。ジャガイモの栽培面積は400万ムーにし、平均ムーあたりの収穫量を1,350kgにし、ジャガイモの加工及び区外への販売は80%にする。

### 、重点産業の規模と効率の拡大、向上

産業の集中度が高く、率先力の強いクコ、清真牛・羊肉、ジャガイモ、乳産業の四つの特色優位性産業を重点的に発展させ、集中して支援する。産業を集中させ、規模の有る経営レベルを高める。特色の明確な、潜在力のある葡萄、施設野菜、牧草、淡水漁業、カシミヤなどの発展を積極的に支援して普及し、現代農業の発展と農民の収入を増やす中核産業に築き上げる。条件を作り、環境を優勢化し、砂地スイカ、棗、酸っぱいリンゴなどすでに一定規模を形成した地方的特色のある優位性産業の発展を積極的に激励し、重点的に指導、誘導して、産業の中身を高め、市場を拡大して、順調に発展させ、現代農業の発展と農民の収入を増やす二次的基礎産業に育成する。

特色優位性産業を大いに発展させることは、地域経済の発展に重大な役割がある。それは西部大開発の新しい戦略的選択でもある。寧夏の特色優位性は資源の優位性を頼りにして発展を加速し、2003年に寧夏で“特色優位性農産品地域分布及び発展計画”を実施した最初に比べてみると、クコの面積は45%の増加、乳牛の飼養頭数は2.25倍の増加、ジャガイモの面積は2.3倍の増加、瓜類と野菜の面積は45%の増加、淡水魚の面積は33%の増加、葡萄の面積は2.05倍の増加、農産品加工レベルが高まり、波及する率先力は著しく向上し、自治区レベルのリーダー企業は55社に達し、国家レベルのリーダー企業は8社になった。特色優位性産業を主体とする農民の専門業種合作組織は762に達し、32.6%の増加である。2006年に、寧夏農業の総生産高は138億元で、全自治区の戦略的主導産業と地域的特色産業（カシミヤ、ウールを含まない）による生産高は全自治区の農業総生産高の80.5%を占める。“第十次五カ年計画”期間の全自治区の農民一人当たりの純収入は7.8%の増加で、西北では前列に立っている。

しかし、はっきり認識しなければならないことは、一つの地域の自然資源の豊かさとその経済の発展レベルの間には必ずしも必然な相関性があるとは限らず、ただひとつの潜在的優位性である。これらの潜在的優位性を本当の現実的な経済優位性に転化させるために重要なことは、地域の競争力の優位性をいかに育成して作り出し、維持するかである。地域産業の発展は、将来の市場競争の中で比較的大きなコントロール或いは優位な立場を獲得することを十分に保証しなければならない。現在の市場競争が、日々激しい状況の下で、地域競争の優位性を育成し、作り出すことは、寧夏特色優位性農業の競争力を強くするための保障が前提条件である。

陳育寧教授略歴(2007年10月現在)；1945年1月の生まれ、漢族、1967年北京大學歴史学部卒、その後、内蒙古社会学院の副院長、寧夏社会科学院院長、寧夏回族自治区人民政府副秘書長、弁公室主任、銀川市委書記を歴任。現在は政治協商會議寧夏回族自治区委員会副主席、寧夏大学党委会書記、教授、博士・修士コースの指導教官、國務院の特別手当授与。主な専攻は民族史、民族史学理論、民族地区經濟の教学と研究。その他、中国歴史学会理事、中国民族史学会副理事長、山東大学、上海交通大学教授を兼任。